

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホームえやんばい

ユニット名 いちきち

自己評価実施年月日 平成 20年 10 月 1 日

記録者氏名 谷 里加

記録年月日 平成 20年 10 月 1 日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	<p>近隣に民家が少なく、隣同士のお付き合いは、出来ていないが、地域の学校との交流は盛んに出来ている。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	<p>一人一人についてより良い生活が出来るよう、職員みんなで話し合い、統一した対応に努めている。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	<p>ご家族との交流はよく出来ている。地域の方にも協力してもらい、納涼祭も恒例行事となり、地域に根付いている。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	<p>ご近所はあまりないが、地域の方が気軽に立ち寄ってくれる施設を目指したい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	<p>地元の方々との交流には努めている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取組んでいる	実習生の受け入れを積極的に行っている。	○	実習生の受け入れの他、地域住民を対象とした、勉強会も行っていけるようにしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果、改善点を職員会で話し合い、改善に向けての取り組みを行っている。	○	評価結果についての話し合い、改善に向け職員みんなで取り組むことができています。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会にてサービス評価の結果を報告し、意見を聞きながら、サービスの向上に努めている。	○	運営委員会の委員さんの意見も参考にしながら、サービス評価を活かす事が出来ている。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者の方との関係を密にし、いろいろ相談にのってもらったり、アドバイスを受けていたりしている。	○	市の担当者の方との関係は密に取れている。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内の研修会で1年に一度、権利擁護についての勉強会を行っている。	○	今後も引き続き勉強会をし、全職員に周知徹底して行きたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、職員間で勉強会やミーティングを実施し、高齢者虐待防止法に関する理解や防止の取り組みが出来ている。事件などがあれば、新聞記事をコピーし掲示したり、話し合っている。	○	高齢者防止法についての勉強会を定期的に開催し、研修があれば、ドンドン参加して行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間を掛け説明するよう努めている。医療連携体制の説明、重度化や看取りについては指針を渡し、同意を取っている。	○	十分な説明には努めている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者ば言葉や態度から思いを察する努力をし、ミーティングで一人一人の立場に立ち、その方に合った対応が出来るよう話し合っている。	○	利用者の方が自分の言いたい事を自由に言える環境を今まで以上に作れるよう努力して行きたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	3ヶ月に一度、季刊誌を発行し、グループホーム内での生活を知らせている。その際担当からのコメントも添えるようにしている。面会時には、必ず声を掛け、状態の報告をしたり、変化があった時は都度電話での連絡もしている。	○	今後ご家族の方との連絡を密にとり情報の提供をして行きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話にて、職員側より進んで声掛けをし、何でも言ってもらえるよう雰囲気作りに留意している。ご家族からの要望はミーティングで話し合ったり、連絡ノートにて職員に徹底するようにしている。	○	ご家族の方が相談しやすいよう職員側から声掛けし話しやすい環境を作るよう努める。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時、一人一人が自分の意見を言えるような雰囲気作りに努めている。	○	全体の場では、意見を出せない職員に対しても、意見が言えるよう個別に聞いたり配慮をしてゆく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の生活ペースに合わせた職員配置、時間を話し合っている。都度話し合い時間も変更したり、対応している。	○	利用者の状態に合わせて、職員の勤務時間の変更を都度行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はあるが、利用者のダメージを最小限にすむよう、引継を十分とり配慮している。ご家族の中には、職員、担当者の異動に不安を持っている方もいる。	○	職員の異動時は、利用者のダメージを防ぐ努力（引継を十分にしてく）をする。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が順番で、施設外研修に行けるよう計画したり、法人内でも育成の為の研修を行っている。	○	1年間の研修計画を立て計画的に研修が出来るよう、努力したい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ市のグループホームの方が集まり、話し合う機会を設けている。県のグループホーム協会、全国グループホーム協会にも入会している。	○	同じ市内のグループホームの方との交流は現在も出来ている為、今後も続けて行きたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	会議等で話し合い、みんなが働きやすいようみんなでも検討している。利用者より離れて、休めるよう休憩時間をとり、ストレスの軽減に努めている。	○	利用者が重度化し、職員のストレスも以前より多くなったと思う。少しでも軽減出来るような環境作りを職員全員で話し合いながら工夫したい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	やる気は十分あるが、業務にながされ向上心をもって働けていない職員もいる。自分の得意な面を活かし活躍している職員も多くいる。	○	職員全員が向上心をもって活躍できるよう、職員個々の把握をし、伸ばしてゆけるよう努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の状態の把握には努めている、入居前に遊びにきませんか、との声掛けはしているが、実際本人が来るケースは少なく、ご家族の方のみが見学に来る事が多い。	○ 面接はするようにしているが、ご本人が求めている事をご本人から聞く事ができていない為、入所前からご本人を受け止めるよう努めたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にご家族からの相談がある場合は、ご家族の困っていること等相談に乗っている。	○ ご家族の方から相談があった場合には、相談にのっているが、相談がない場合には、利用前の信頼関係が築けていないと思うので、利用前のアプローチに努めたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談を受けた時、空室がなく即座に対応が困難な場合が多いが、他のサービス利用を進めたり、居宅支援事業者との連携を取って対応している。	○ 居宅支援事業所との連携を取り、支援の見極めや、他サービスの利用への助言等行っている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に遊びにきませんか、との声掛けはしているが、実際本人が来るケースは少なく、ご家族の方のみが見学に来る事が多い為、ご本人が雰囲気馴染む事なく入居する事が多い。	○ 入居前のアプローチが十分出来ていないので今後の対応を検討したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中から、その方々にあった仕事等してもらったり、優しい言葉等に支えられている。生活の知恵や、風習等教えてもらっている。自分の役割と責任感をもって家事をしている方もいる。	○ 一人一人の得意な事を活かし、一緒に楽しく生活している。重度化が進み、身体的には、一緒にできなくても、会話などにより、喜怒哀楽を共にしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン作成時、必ずご家族の方に相談し、一緒に考えてもらったり、ご家族の方がグループホームに来て、口腔ケアをしてくれたり、散歩をしてくれたりと一緒に支えてくれている。	○	職員とご家族の関係は、とてもよいと思う。ほとんどの家族の方が協力的で、利用者の事を職員と共に考え、共に支援が出来ている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	個別に帰宅支援をしている。家族の方と良い関係を保てるよう、家族の方との連絡を取り合っている。	○	ご家族の方と利用者の関係は、みなさん良い関係が築けていると思う。今後も利用者のご家族の橋渡しをしてゆきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が以前生活していた地区の敬老会に参加し、懐かしい方と再会したり、自宅や親が入所している老人ホームに面会に行ったりと個別に対応している。	○	外出支援出来る方は、馴染みの場所に職員と共にでかけたり、ご家族の都合により、自宅への外出ができない方も頻りに面会に来てくれている。しかし、身体レベルが低下している為、以前より外出の機会が少なくなっていると思う。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関わりも多いが、トラブルも多い。それぞれのケースに応じて対応している。	○	ウマのあった方同士が寄り添いあって過ごしているが、徘徊のひどい方や、不穏になった方に対して、暴言等言ったり、ストレスになっている方がいて、対策を考えている。それぞれの方が、落ち着いていられる、居場所作りを検討して行きたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	1年の間では亡くなられて退居されたケースばかりだが、残っていた写真を家族に送ったり、出会った時は、思い出話し等をしたり交流している。	○	継続的な関わりを必要とされる方が退居された場合は、連絡を取り合っけてゆくようにしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛け、把握に努めている。会話の中からはもちろん、表情、行動等からも一人一人の意志を察し、対応できるよう、ご家族の方からも情報をえながら支援している。	○ 思いや意向の把握はできても、叶えてあげられない事もある。自宅で生活したいと希望している方の望みが叶えてあげられない分、少しでもご家族と過ごす時間が取れるようご家族の方と連携をとって支援して行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人を把握する為に、入居時に、生活歴を聞いたり、本人に聞いたり、ご家族の面会時、帰宅支援時に情報を得るようにしている。	○ 入居時、面会時、帰宅支援時に情報を得るように努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の生活リズムを理解し行動や小さな動作から感じ取り本人の全体像を把握している。	○ 一人一人のリズムを知り現状を把握するよう努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族の方に、意見、要望を聞き、職員全員で話し合い、一人一人に合った対応をプランに反映している。	○ 介護計画を立てる際、家族の要望を取り入れ、職員と話し合いながら作成できている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認し、ご家族や、ご本人の要望を取り入れつつ、期間に応じて見直し、状態の変化に応じた見直しが出来ている。	○ 介護計画の期限に応じての見直し、状態に応じての見直しが出来ている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態を把握する為、個別記録、申し送りノートに加え口頭での申し送りの強化をしている。	○	個別記録、申し送りノート、重要事項については、口頭での伝達が出来ている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や自宅、親戚の家への送迎等必要な支援を柔軟に行っている。	○	本人の希望、家族の方の要望に対応できるよう努めている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	市役所に働きかけ、行方不明者が出た場合、捜索態勢（市民にも協力してもらえよう）協力を求めている。	○	警察、消防への働きかけが出来ていないので、可能な限りの機関への働きかけに努めたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他サービスの利用はしていないが、ご家族と相談し、利用者の希望が叶うようグループホーム内で対応している。	○	必要があれば、他サービスの利用が出来るよう支援してゆきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員に、運営推進委員会に参加してもらいアドバイスを受けている。	○	地域包括支援センターの職員にもアドバイスを受けながら支援してゆきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業者の協力医の他、利用前からのかかりつけ医、専門医の診察が受けられるよう、ご家族と協力している。	○	利用者の意向を大切にしながら、支援してゆきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	認知症の専門医は近隣にいないが、認知症に詳しい医師との交流は出来ている。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	看護職員を配置している為、利用者の健康管理等の日常の支援ができています。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	情報の提供は出来ている、早期の退院に向けて医療機関への働きかけや相談も行っている。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	重度化に対応出来る施設である事の説明は行い、指針についても同意書をつけて説明している。医師との話し合い、連携も取れている。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	本人、ご家族の意向に沿えるよう、出来るだけの努力はしてゆきたいが、痛みを伴ったり、治療の必要がある場合は、主治医と相談しながらご家族を含め、今後の対応を話し合っ行ってきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	情報提供をきめ細かくし、利用者のダメージの軽減に努めて行けるよう、連携を取って行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	人前であからさまに介護したり誘導の声掛けに心掛けていたが、排泄の誘導時、言葉にだして誘導する事が時々ある。他の家族や外来者に対して、利用者のプライバシーに関する事を話さないよう心掛けている。	○ 排泄の声掛け等、他の利用者の前でする事がある為、職員全員の意識改革からして行きたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員側できめた事を押しつけるのではなく、その方の能力に合わせた作業や娯楽の提供に努めている。	○ 意思表示が困難な方に対しても、気持ちをくみ取って対応できるよう、その方の事を深く知る努力をする。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員ではないが、意思表示出来る方には、希望に添えるよう努めている。意思表示出来ない方も、その人らしいリズムが取れるよう配慮している。	○ きめ細かい配慮に努め、それぞれの方のペースに沿えるようにして行きたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一人一人に合った身だしなみの支援をさせてもらっている。娘さんがカットやパーマに連れて帰ってくれたり。理容院に連れて行ったりしている。	○ 馴染みの美容院に行きたい方への支援はしているが、ご家族、ご本人より、職員が切ってほしいと要望があればそのようにしている。(美容師の資格がある職員がいる)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状況や体調に合わせ、買い物、食事作り、片付けなどできている。	○ 個々の嗜好の把握をし、それぞれの方への配慮が出来ている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が好むお菓子やジュースなど個別に対応買いに行っている。	○	現在、たばこ、酒をたしなむ方はいないが、病気等に悪影響がなければ、希望に沿えるようにしたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	体調や状況に合わせて、オムツを外し布パンツへの支援を行っている。	○	出来るだけトイレにて排泄できるよう、誘導しているが、重度化が進み、パットや紙パンツ使用にて、誘導するケースも多い為、本人の排泄パターンをつかみ、気持ちよく排泄出来るよう支援したい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴出来る体制を整えている。無理に入浴を促す事はせず、本人の意思を尊重した支援を心掛けている。	○	本人の入りたい時に入浴出来る体制は困難な時間帯もある（夜間、早朝等職員が一人体制の時間帯）。毎日でも入ってもらえる体制は整えている為、その時間内で、希望に沿えるよう努めて行きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間安眠につながるようにと、日中の活動を促す努力をしている。夜間眠れず空腹等訴える方に対しては、お菓子や飲みものも提供している。	○	一人一人の生活習慣に合わせて、日中でも、休んでもらえるよう、心掛けている。昼夜逆転傾向にある方には、日中退屈せず起きていられるよう工夫したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割や楽しみ事などは、一人一人に合わせて、ケアプランに盛り込んで支援するようにしている。	○	身体機能が低下している方が、もっと活躍出来るよう、出来る事を見つけ、張り合いにつなげてゆきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方に合った金銭管理をしている。自分では、管理出来ない方でも、お金を持っていることで、安心感を得られる方もいるので、家族の協力を得て手渡している。	○	自分で管理している方もいるが、預かり管理している方も多くいる。買い物の際は、自分で持ってもらおう等、配慮しつつ支援してゆきたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候に合わせ、なるべく外の空気を吸ってもらえるよう心掛けている。	○	希望を聞きながらそれぞれの方にあった外出支援をして行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「馴染みの場所訪問」という形で、個別に外出支援している。家族の方にも協力してもらっている。	○	馴染みの場所訪問を続けて行きたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らが電話を掛けたり出来る方がいないので、訴えや希望があった時は、職員が代わって電話を掛け、人目を気にせず話せるよう、職員が席を外す等配慮している。	○	希望により電話を掛ける支援をしている。電話中には、職員がせきを外す事によりゆっくり話せるようにしている。会話の内容の確認が必要な方については、利用者から見えない所でさりげなく聞かせてもらうよう配慮している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族が気軽に宿泊や面会できる体制をとっている。宿泊の家族には、希望があれば食事、入浴の提供もしている。	○	面会に来た方にお茶を出したり、ゆっくり話せる自室にお連れしたりしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会が同じ法人内で行われており、参加を促している。全職員が禁止項目を理解しており身体拘束をしないケアに努めている。	○	身体拘束は行っていない。今後危険が伴い、身体拘束の必要性がある場合にそなえて、ご家族の同意書は準備している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の鍵を閉める事をしていない。居室の鍵は、床を這う方がベランダに転落する危険がある為、危険な方の居室のみ鍵を掛けさせてもらっている。	○	日中に玄関に鍵を掛ける事はない。玄関の戸が開くとチャイムが鳴るようにし、徘徊への対策をとっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で、記録等の事務作業をしながら状況を把握するよう努める。夜間も個々に合わせて様子を見に行く時間の間隔の配慮をしている。	○	プライバシーに配慮しながら、それぞれの方に合わせた所在の確認が出来ている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	夜間は包丁を職員の部屋に片づけ、洗剤等は、目に触れないよう配慮している。職員が一人で目が行き渡らない時間帯は、薬の確保場所に入らないよう工夫している。	○	それぞれの状態にあわせ、居室内の危険な物に対する注意をしている。共同スペースについては、危険なものが目につかないよう配慮している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成し、予防対策の検討をし、家族、市への報告を行っている。事故対策委員会を開催し、事故防止についての検討会を行っている。	○	個々に合わせた事故対策の話し合いを職員全員で取り組んでいる。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が救急法（心肺蘇生法）の講習を受けた。緊急時の対応についても、消防署を呼び研修してもらった。月1回日を決め救急対応等の職員だけの訓練を行っている。	○	月に一度色々な事を想定して、職員間での訓練を行っている。今後も研修（施設内外）の計画を立て取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、災害についての訓練、話し合いを行っている。年2回消防に連絡し火災避難訓練を実施しその内1回は消防も来てくれ訓練に参加してくれている。近隣の施設の協力を得、一緒に訓練をしている。	○	マニュアルを作成し、火災訓練を実施している。地域住民が近くにあまりいない事もあり、地域の方との合同の訓練は実施出来ていないが、近隣施設との合同の訓練は行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	個々の起こり得るリスクについて職員会で話し合っている。ご家族の方とも、対策についての話し合いや報告が出来ている。	○	ご家族の方にも相談したりし職員間で事故対策についての話し合いが出来ている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握している。毎日のバイタルチェックやケース記録により情報の共有が出来対応に結びつけている。	○ 日々の状態の変化の申し送りについて、職員間で十分話し合えていると思う。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方（情報提供書により）を全職員が目的、用法、用量、副作用がいつでも確認出来るようにしている。服薬の支援、確認をしており、必要な方は記録に残している。	○ 薬について、どの職員も確認出来るようにしているが、全ての職員が、細かい薬の内容まで、提供書を見ずには把握は出来ていないと思う。全職員が、薬について把握出来るよう、方法等職員間で話し合っ行ってきたい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤を使用している方に対して、個々に合わせた使用量、頻度等を常に医師と相談しながら服用の支援をしている。	○ 便秘時の対応は薬によって出来ているが、便秘予防が十分できていない。食事面、運動面をもっと考えて行きたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けや出来ない方に対して介助を行っている。夜間は義歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。	○ 食後の口腔ケアは、声掛けは出来ており清潔き出来ている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を記録しており、水分量が少ない方に対して水分確保出来るようなプランを作成し支援している。	○ 食事、水分量チェック表を活用し、摂取量が少ない時は変わりの物を提供したり、個々に合わせた対応が出来ている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	事業所内で起こり得る感染症について、細かくマニュアルを作成し、予防対策に努めている。食中毒・感染症予防対策委員会を開催し討議している。	○ 感染症の対するマニュアルを作成、感染症対策委員会でも対応の検討を行っている。保健所のノロウイルスの研修会に参加したり、職員全員で勉強会もしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん、スポンジ等、毎食後消毒している。食材に応じ、まな板、包丁を替える等配慮している。冷蔵庫内の消毒も定期的に行っている。	○	衛生管理には注意をはらっている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階の玄関にベンチを置いたり、四季の花をプランタンに植えたりの工夫をしている。	○	職員の中で、花の世話係や、装飾係を決め、屋内、屋外の環境整備に努めている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとのフロアの飾り付けをしたり、共同空間をくつろげるよう家具の配置を考えたり、工夫している。	○	環境整備の工夫をしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの場所を2カ所にし、気のあった方同士が過ごせたり、気分によって場所を変える事が出来るよう配慮している。	○	利用者の状態、気分に合わせて居場所を選択できるように、ソファの配置等工夫している。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具を持ってきてもらえるよう、家族の方に働きかけをしている。お仏壇や馴染みの家具に囲まれて生活している方もいるが、衣装ケースのみで寂しい居室の方もいる。	○	居室内に馴染みの家具が少ない利用者の家族への働きかけに努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気候が良い時期は、日中は窓を開けている、エアコンをつけている場合は、掃除の時間や臭いが気になる時はこまめに換気に努めている。トイレ内は窓を開けたり、換気扇、消臭剤にて悪臭への対応を行っている。	○	排泄介助後や、ポータブルトイレ使用の利用者さんの部屋は特に、換気や臭いへの対応を強化したい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、トイレに手すりの設置をしたり、自分で動きやすいように、ベッドの位置や家具の配置を考えている。	○	個々の身体レベルに合わせ、トイレの手すりや、ベッドの配置を考えている。その事により自立排泄が出来ている方もいる。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	状態の変化に伴って混乱や失敗が生じた場合都度、職員みんなで話し合い、本人の不安材料を取り除く工夫をしている。居室がわからなくなる方の居室には大きく名前を書いて貼ったり、盗人が入ると訴える方の居室の前にソファを置き、居室を見てもらう事で、安心してもらうよう配慮している。	○	本人の不安要因を職員全員で話し合い、取り除く努力をしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前にベンチを置いたりしている。気候が良い日は、玄関前で、おやつを食べたり、昼食を取ったり、1階、2階一緒に楽しむ事もある。	○	狭い玄関前、ベランダであるが、工夫し活用している。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地元の敬老会、曾孫の運動会、帰宅支援等出来るだけ、家族とふれあうよう、個々に合わせて支援するよう努めている。帰宅への家族の受け入れが困難な方は、グループホームに来てもらい、ゆっくりと一緒に過ごせるよう配慮している。